

令和元年度

赤ちゃん和小学生のふれあい体験

実施報告書



知多市児童センター

令和元年度 赤ちゃんと小学生のふれあい体験事業 実施報告

知多市児童センター

1. 趣旨

近年、社会の中で核家族化、少子化が進み、子どもが成長する過程で、自分より小さな子どもや赤ちゃんに接する体験がないまま、大人になる人たちが増えています。結婚をして親になった時に、初めて赤ちゃんに接することになり、実際に赤ちゃんを目の前にして、どう接して良いか戸惑うことも少なくありません。

国は、乳幼児とふれあう取組みを、児童館の新たな取組みとして位置づけ、市でもこの事業を、子ども・子育て支援事業計画の施策として位置づけ実施しています。児童センターが、地域の親子を募集し、小学6年生が成長の過程で赤ちゃんとのふれあい、関わることにより、赤ちゃんを身近に感じ、命の尊さに関心を持つ機会とします。



2. 実施要領

小学生	親子とのふれあいを通し、赤ちゃんの愛らしさや温かさ、子育ての喜びや大変さ、親への感謝の気持ち、家族との絆の大切さ、また、命の大切さを感じる機会とします。
親	参加する親は、赤ちゃんとの関わる姿を通して、わが子への愛情を再確認し、自分の子どもの成長や、将来をイメージします。 事業に参加することで、親になる次世代の教育を支援する、という社会参加、社会貢献に繋がっていると感じ、保護者自身の子育てに対する評価と自己肯定感を高めます。

3. 実施までのスケジュール

日程	実施事項	内容
平成31年3月	実施校担当教諭との打ち合わせ	・概要の説明と実施場所の確認
実施日より3週間から1か月前の間	担当教諭、実施クラス担任と打ち合わせ	・日程、時間、内容、流れ、役割分担の説明と確認
各校実施日 6・7月	事前学習（おもちゃ等の搬入） ふれあい体験 振り返りの授業の実施	・ねらい、配慮事項 ・人形を使って抱き方の練習 ・乳幼児親子とのふれあい ・担任による振り返りの授業

4. 開催日時・場所・実施人数

赤ちゃんが安心できる、安全な環境で、赤ちゃんの生活のリズムを考え、機嫌の良い午前中に開催しました。

実施校	日にち	親/子 人数	小学生	ふれあい体験場所	事前授業場所
つつじが丘 小学校	6月13日(木)	25組 30人	29人	集会室	つつじっ子 ホール
	6月14日(金)	22組 27人	30人		
旭東小学校	6月26日(水)	15組 17人	28人	大会議室	6-1教室
新田小学校	7月2日(火)	26組 31人	34人	中ホール	大ホール
	7月3日(水)	23組 23人	34人		
	7月4日(木)	24組 28人	36人		

5. 内 容

事前学習(各校1日目1時限目 6年生全クラス対象)

●前日、または当日朝、おもちゃや運動遊具など、使用する物品をふれあい体験の会場へ搬入し、体験へのイメージをわかせる、気持ちを高めました。



●児童センター指導員から、体験の目的や、ふれあいにあたっての注意事項を聞き、新生児人形を抱っこすることで、実際の赤ちゃんの重さを体感し、赤ちゃんの命と真剣に向き合えるような動機付けを行いました。また、体験前に赤ちゃんとやってみたいことやお母さんに聞いてみたいことを事前質問用紙に記入してもらい、体験に臨めるようにしました。



●ふれあい遊びの練習をしました。児童が赤ちゃんにさわって、反応を見ながら遊ぶ体験ができるように、「ふれあい遊び」を意図的に取り入れています。「いっぼんばしこちょこちょ」など、友だち同士で赤ちゃん役とお母さん役になり、指導員と共に行いました。赤ちゃんとのふれあいを楽しみにして、照れながらも笑顔で練習しました。



ふれあい体験（2. 3時限目）

● 出合い

親子と小学生のペアを作り、玄関で出迎えた後、自己紹介をし、受付からふれあい会場まで親子を案内しました。お母さんの荷物を持ってあげたり、赤ちゃんと手をつないで歩いたりしながら、会場まで一緒に移動しました。会場に着いた後は、それぞれ気に入った場所やおもちゃで遊び始めました。赤ちゃんも児童も、少し緊張しながらの、ふれあい体験スタートです。



● 自由遊び

おもちゃ、運動遊具などで自由に遊ぶ中で、赤ちゃんにふれたり、実際に抱っこさせてもらったりして、楽しい気持ちを親子と共有しました。また、赤ちゃんの保護者と話をしたり、質問したりする中で、子育ての楽しいことや大変なこと、親の思いなどについて知ることができました。



● ふれあい遊び（一体感を感じる遊び）

事前学習で練習したふれあい遊びをしたり、簡単な集団遊びをしたりする中で、親子がふれあう様子、赤ちゃんのうれしそうな表情などに気づく機会となりました。



振り返り授業

担任が、ふれあい体験を振り返る授業を行いました。(約30分間)

体験を終えて、自分の考えや気持ち(気づいたこと、感じたこと)を感想用紙に記入してもらい、クラスで話し合いをしてもらいました。



6. 質問用紙、感想から(抜粋)

◆体験前日までに、次の質問について考えてもらいました。

質問1：赤ちゃんが来たらどんなことをしたいか

質問2：赤ちゃんは、どんなこと、どんな遊びをすると喜ぶと思うか

質問1に対しては、「ほっぺたをさわってみたい」という回答が多く、赤ちゃんのほっぺたは柔らかいのだろうとイメージし、ふれてみたいという気持ちがうかがえました。しかし、「良い時間を過ごしたい」「赤ちゃんが泣いたり、不機嫌にならないようにしたい」という漠然とした意見も目立ち、赤ちゃんと遊ぶことに対して具体的なイメージが持っていないこともわかりました。



質問2に対しては、「いないいないばあ」や「くすぐる」「絵本を読んであげる」「おもしろい顔をする」など、小学生なりに赤ちゃんが喜びそうなことを考えたことがうかがえました。

◆体験後、「実際に体験してみてどうだったか」答えてもらいました。

質問1について、「したいと思っていたことができた」「少しは思うようにできた」と84%の児童が回答しています。

質問2について、「やってみたら喜んでくれて嬉しかった」と62%の児童が回答していますが、「やってみたら喜んでくれていたのかわからなかった」「思うようにやれず難しかった」と35%の児童が回答しています。実際に赤ちゃんと過ごし、喜んでもらえる嬉しさとともに、自分の考えたようにはいかない大変さや難しさも感じたことがうかがえます。



◆「ふれあい体験をしてみてどうでしたか？」と終わった後の感想を答えてもらいました。

「かわいかった」「楽しかった」と、約90%の児童が回答し、「また会いたい」「体験して良かった」と、約80%の児童が回答しています。約50%の児童が「緊張した」と答え、約30%の児童が「気をつかった」「疲れた」と答えています。それでも「苦手」や「体験しなくてもよかった」という答えが3%にも満たなかったことから、大多数の児童にとっては決して嫌な疲れや緊張ではなく、普段の生活ではなじみの薄い赤ちゃんとのふれあうことに対して、いつもとは違う心の動きがあったのではないかと思います。



自由記述の中には、「いっぱい笑ってくれてよかった」「自分がたおれたら、赤ちゃんが喜んでくれた」などの記述が複数あり、赤ちゃんが笑ってくると、児童も嬉しい、楽しいと感じ、自信につながったのではないかと思います。そして楽しい気持ちを共有した赤ちゃんとの「離れるのがさびしかった」「自分からバイバイしてくれて嬉しかった」と感じ、短い時間のふれあいのなかで、児童と赤ちゃんとの心のつながりが芽生えたことがうかがえます。



◆「自分と家族のつながり」「命の大切さ」について思ったことを答えてもらいました。



「抱っこしたとき意外に軽くてびっくりしました。事前学習の時に抱いた人形の赤ちゃんよりあったかくて、命の大切さを実感できたと思います」「赤ちゃんをかわいいな~と思いました。自分に子どもができれば大切に育ててあげたいと思いました。自分の親が大切に育ててくれたことがなんとなくわかったので、ありがとうって言いたいなと思いました」「親は子どものことが大好きだから少しの変化にも気づいてくれるんだな~と思いました。だから親が何か言ってくるのは、私のことをよく見ているからなんだと感じました」という感想があり、赤ちゃんを愛おしく、守るべき存在と感じるとともに、自分を育ててくれている親に思いを馳せる機会にもなったと思います。



また「小さい子を殴ったりする虐待のニュースがあるけれど、その命は一つしかないし、人は人だから大切にしておいてほしい」「お父さん、お母さんがいつも見守ってくれていたことがわかる良い機会だった。命の大切さもわかった。だから命を投げ捨てるなんて一瞬でも思っはいけないと思いました」など、自分たちと赤ちゃんの命の重さが変わりがないことに気づき、ニュースで見聞きするような悲しい事件がこれ以上起こらないことを願い、自分自身を大切にする気持ちになったことなどがうかがえます。



参加保護者の感想（アンケートより抜粋）



- ・小学生がとてもやさしく接してくれて嬉しくなりました。小さな息子がこんなふうに優しく成長してくれたら嬉しいなと楽しみになりました。
- ・自分からお姉さんの手をとって好きな遊びに行く姿があり、いつもにはない姿にびっくりしました。
- ・いろいろな性格のお兄ちゃんお姉ちゃんがいて、とても参考になりました。小学6年生という歳の子がどう成長しているのか見られたことがとても

も良い経験になりました。

- ・小学生の子が、7か月の娘にどう接したらいいのかわからなかったのを見て、「自分もそうだった」と初心に帰ることができました。
- ・「上手に遊んでくれてすごいな～」と感心しました。小学生を見ていて、「こうやって遊んであげるといいんだなあ」と学ぶことがたくさんありました。
- ・去年よりもしっかりとコミュニケーションを取れる姿に、我が子の成長を感じました。



- ・優しいお姉さんに遊んでもらってとても嬉しそうでした。いつも母としか遊んでいないので、参加してよかったです。



- ・小学生といろいろ話せたのが新鮮でよかったです。
- ・小学生との交流は初めてで、子どもにとっても私にとっても良い経験になりました。上の子よりも大きい子とふれあえて、少し緊張しながらも徐々に慣れていく姿に小さな成長を感じつつ、ほほえましかったです。

普段関わる機会のない小学6年生とのふれあいに、はじめは親も子も戸惑いながらも、時間が経つにつれて徐々に慣れて笑顔で遊ぶ我が子の姿に安心し、成長を感じる保護者が多かったようです。また、我が子が小学6年生になったときの姿を思い描き、ふれあった児童のように「優しい子に成長してほしい」と願うなど、我が子の少し先の未来を想像する機会になったようです。戸惑う児童の姿に親になったばかりの頃の自分を重ね、一生懸命に我が子と遊ぼうとする児童の姿から「こういうふうになると喜ぶんだ」と保護者にも気づきや学びがあったようです。

教諭アンケートより（抜粋）

【体験前後における児童の変化や気づき】

・緊張していたのか、それとも他人の赤ちゃんとふれあうことに不安を感じていたのか、実施前は児童自身が積極的ではなかった。しかし、実施している中で緊張感や不安がなくなっていき、普段なかなか見ることのできない表情を見せる児童もあり、新たな一面を見ることができた。

・はじめは赤ちゃんを聞いてどうしたらいいのかわからず不安な子がいきました。でも慣れてきて、後半には一緒に笑っていました。感想にも子育てに対する前向きなコメントがありました。大変さにも改めて気づくことができたようです。

・上手く伝えることの難しさを感じ、子育てのすごさを味わったと思います。きっと自分の赤ちゃんの頃を想像していたのだと思います。



【ふれあい体験が児童にとってどのように活かされたと思うか】



・振り返りをする中で、赤ちゃん、お母さん、関わった自分のことを落ち着いて考えることができました。児童自身も大切に育てられていることに気づき、感謝の気持ちが深まったと思います。将来親になること、保育士になることへの憧れの気持ちを深めた子もいました。

・今まで育ててくれた親に対して感謝の気持ちを持たせた子も多くいました。「あ！かわいい！」というように、普段では使わないような優しい言葉が自然と出るのがすごく良かったです。高学年にもなると心を病んだり、人の目を気にしたりと気苦労も多いので、少しリラックスできたいい時間だったようです。



7. まとめ

ふれあい体験を通して小学生は赤ちゃんのかわいさを実感し、小さな命を思いやる姿が見られました。そして、子育ての大変さを間近に見たり、聞いたりすることで、自分が大切に育てられてきたと感じ、家族への感謝の気持ち、命の大切さを学ぶ体験ができたように思います。

参加した保護者は、自身の子育てを振り返り、わが子の成長を楽しみに感じていました。このことは、自身のこれからの子育てにいい影響を与えていくことと思います。また、赤ちゃんも、小学生のお兄さん、お姉さんに遊んでもらうことで、人への興味関心がさらに増し、これからの人間形成に重要な経験となったことと思います。



